

には中井先生は還暦を迎えられ大学を退官、12月17日には陸軍軍政長官に任ぜられ、翌18年にボゴール植物園長として渡航された。昭和18年の植物学教室では昭和14年以来助手となった筆者は教室事務を北根益治氏と、標本室管理を古沢潔夫氏と、集会、冠婚葬祭、学生の手話役を小倉安之氏と分担した。教室の他のことは宝月欣二、原田市太郎、小倉安之諸氏とが分担した。昭和19年暮近く日本本土爆撃が始まり、植物学教室所蔵の腊葉や貴重図書を原寛博士の世話で長野県の軽井沢の公会堂に疎開した。草木研究会は自然消滅し、余った金は腊葉室へのナフタリン入れ、植物乾燥器の移転費、連絡の葉書代などにあてられた。

草木研究会創立の当時の筆者の偽らざる感想は、この事業は中井先生が弟子たちのことを思って始められたのであるが、諸先輩のように日本フロラ全体を学んでおり、又は学ぼうとされる方には好いが、自分のようにオトギリソウ科のモノグラフにとりついたばかりの者にとってはありがた迷惑だというのであった。なにしろ送られてくる標本はベテランがもてあますような難物が多いのである。筆者はこれらについて僅かに本誌第16巻(1940)1号、2号に「草木だより」(1)-(5)を誌したにすぎない。しかしながらこの研究会の会員を知ることで、研究会とは別にオトギリソウ研究の資料の援助などをうけたことは大きな幸であった。

(東京都杉並区 [redacted] Suginamiku, Tokyo)

○高等植物分布資料 (113) Materials for the distribution of vascular plants of Japan (113)

○レンブクソウ *Adoxa moschatellina* L. 1984年4月、熊本県阿蘇郡の佐藤武之氏から、見慣れない植物が開花しているがレンブクソウではないかと同定を依頼された。同年5月、同氏の案内で現地(阿蘇郡高森町河地、標高約760m)に赴き、レンブクソウが二次林の林縁部から放棄された畑地跡にかけての比較的湿った場所に大きな群落をなして生育していることを確認した。同所からは、九州では珍しいアズマイチゲも見出されている。北半球の温帯に広く分布するレンブクソウは、日本においては千島・樺太から岡山県までに分布することが知られており(Hara, *Ginkgoana* 5: 303, 1983), 岡山県以西からは初の報告である。標本(T. Kato & T. & M. Sato, no. 4001, May 9, 1984)は、東京大学理学部附属植物園(TI), 京都大学理学部植物学教室(KYO), 中国科学院植物研究所(PE) および Royal Botanic Gardens, Kew (K) の各標本庫に収蔵される予定である。(東京大学 理学部附属植物園 加藤辰己 Tatsumi KATO)